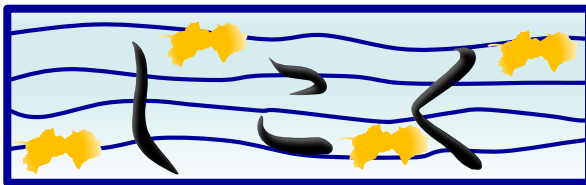


主な記事

自衛官候補生課程入隊式 (1面)
總監部隊視察 (1面)
中隊長等集合訓練 (1面)
前期陸曹候補生等2次試験 (2面)
旅団ナンバーワン戦士 (2面)
フォトオブザイヤー2020入賞 (2面)



令和3年(2021年) 4・5月 第167号

旅団長統率方針「任務必成」
旅団長要望事項「プロであれ」



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp

自衛官候補生課程入隊式



希望を胸に敬礼を行う自衛官候補生

大きな希望を胸に

善通寺駐屯地(第15即応機動連隊)・高知駐屯地(第50普通科連隊)のそれぞれの駐屯地に、春を呼ぶ若さ溢れる自衛官候補生94名が入隊

第15即応機動連隊(連隊長 品川淳一)等陸佐は、4月8日善通寺駐屯地で、第50普通科連隊(連隊長 溝口光章)等陸佐は、4月11日高知駐屯地において「令和3年度自衛官候補生課程入隊式」を挙行了した。

おだやかな日差しの中、真新しい制服に身を包んだ自衛官候補生(以下「自候生」)が、力強く服務の宣誓等を行った。

今年度は、善通寺駐屯地65名、高知駐屯地29名の自候生が入隊した。それぞれの入隊式において、第15即応機動連隊長は、「国を護るという重大な任務を担う自衛官としての道を自ら選択し、入隊を決意した諸君に対し、深甚なる敬意を表す」と述べ、また、第50普通科連隊長は、「本日にここに並んだ自衛官候補生全員が、3ヶ月後に晴れて修了式を迎えられることを祈念する」と式辞を述べた。

両部隊の自候生総勢94名は、両連隊長からの激励を胸に自衛官への第一歩を踏み出した。

【高知駐屯地】



式辞を述べる
第50普通科連隊長



入隊式全景

【善通寺駐屯地】



「宣誓」を行う
自衛官候補生



入隊式全景

中隊長等集合訓練

旅団の精強化図る

第14旅団は、4月12日から13日までの間、善通寺駐屯地に於いて、隷下部隊の各中隊長等36名に対し、令和3年度中隊長等集合訓練を実施した。

12日、旅団長訓話に引き続きテーマに基づくグループ討議を行い、13日は、司令部各部課等による教育を行った。

旅団長は中隊長の心構え及び実務上の着意事項等について訓話を実施し、指揮官としての資質を涵養及び職務遂行能力の向上を図った。

中隊長等は、教育訓練及び服務に関するテーマについてグループ内で発表及び意見交換を行い、自隊の隊務運営に反映させた。



グループ討議を行う参加者



訓話を行う遠藤旅団長

總監部隊視察

野澤總監が部隊を視察

第14旅団は、4月7日高知駐屯地、4月8日高知駐屯地、5月26日徳島駐屯地及び北徳島分屯地において、中部方面總監野澤真陸将による部隊視察を受けた。

各駐屯地に所在する部隊長から野澤總監に対する状況報告を行い、その後の巡視において、駐(分)屯地各施設等の現況確認を受けた。また、訓示において總監の意図を承知し、今後の隊務運営の資とした。



隊員を前に訓示を述べる野澤總監



凜とした姿勢で術科試験（分隊教練）に挑む隊員



己の限界に挑んだ体力検定

日頃の練成成果を出し切った
術科試験（戦闘戦技試験）悔いがないよう思いの丈を
ぶつけた口述試験

前期陸曹候補生等選抜2次試験

つかみとれ！ 未来

第14旅団は、4月6日から9日までの間、善通寺駐屯地において旅団直轄部隊（女性自衛官含む）の第1次試験合格者18名に対し、令和3年度前期陸曹候補生等選抜2次試験を実施した。

試験は、第14旅団第1部長を試験委員長、旅団最上級曹長を試験班長として口述試験（個人面接）、体力検定及び術科試験（分隊教練、戦闘戦技試験）を行い、日頃の練成成果を確認し第2次試験を終了した。

第2次試験の合格者は、令和3年7月1日に陸曹候補生に指定される。

フォトオブザイヤー2020入賞

「明日へジャンプ」
第14音楽隊 3等陸曹 藤田 悠佑

第14旅団は、写真技術向上及び写真を通じて隊員が陸上自衛隊に対する関心や理解を深め、更なる士気の高揚を図ることを目的として陸上幕僚監部が部内広報誌「ARMY」誌上において開催するフォトオブザイヤー2020に参加した。

本フォトオブザイヤーは、陸上自衛隊の部隊等に所属する陸上自衛官等が撮影した活動写真を対象とし、旅団は、隷下部隊の広報要員を対象として、令和2年1月1日から12月31日までの間に撮影した現場で輝く部隊・隊員の活動写真

等を募集し、部外カメラマンにより採点・評価を受けた。

最優秀賞を受賞した第14音楽隊 藤田悠佑3等陸曹は「フォトオブザイヤーの入賞作品は私も毎年ARMYを読んで拝見しており、レベルの高い写真の数々にいつも感嘆しておりますが、本年は私が撮影した写真が最優秀賞に選出されたとき、光栄に思っています」ともにとっても驚いています。

今回入賞した作品は、旅団SNSのトップ画面で使用中です。

最優秀賞 旅団から誕生

旅団ナンバーワン戦士

俺に任せろ！俺に続け！
総合的に判断した認定要領に、変更

第14旅団は、准曹士の戦技優秀者を「旅団ナンバーワン戦士」に認定し、准曹士の戦技意欲の向上及び士気の高揚を目的として令和2年度旅団ナンバーワン戦士を認定した。

例年までは、小火器射撃、体力検定及びTOEICのそれぞれの課目のナンバーワンを認定していたが、今回からは、射撃検定（準特1級）及び各種検定（格闘・救急法）の合格者を基準として、トップになった隊員を認定した。

■拳銃射撃

9mm拳銃の部

第15即応機動連隊

第2機動戦闘車中隊

2等陸曹 竹内 通泰

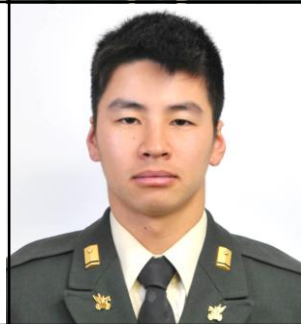
射撃得点：140点（等級）/118点（特級）
体力検定：300点（282点以上）/297点

■小銃射撃（基本）

准曹の部

第14偵察隊

3等陸曹 松田 卓巳

射撃得点：50点（等級）/45点（準特）
体力検定：300点（282点以上）/282点

■小銃射撃（基本）

陸士の部

第15即応機動連隊

第1普通科中隊

1等陸士 熊田 光樹

射撃得点：50点（等級）/44点（準特）
体力検定：300点（282点以上）/294点

※ 女性隊員該当なし

第15即応機動連隊

方面隊統制春季演習場(日本原)整備 修練の道場 整備任務を完遂



記念撮影(編成完結式)

第14旅団は、4月14日から22日までの間、第14旅団整備隊(隊長 第15即応機動連隊長 品川淳二 1等陸佐以下119名)を編成し、令和3年度方面隊統制演習場(日本原)春季整備に参加した。

本整備は、我々の修練の道場である日本原演習場の訓練基盤の維持・拡充を図るとともに、演習場の長期安定使用と演習場使用者ニーズを反映した実際の訓練環境を構築することを目的に行われ、第14旅団整備隊は、基本射場・潜射場・西停弾堤・中央停弾堤の整備、演習場境界の維持整備及び幹線道路等の側溝整備の6項目を担当した。

本整備作戦は、最高気温26度、最低気温1度を観測する寒暖差の激しい気象条件の下、新型コロナウイルス感染拡大防止のため当初の予定より少ない人員で活動しなければならぬ厳しい勤務環境の中で行われた。参加した各隊員は、宿営用天幕内を透明ビニールで仕切る等、万全の新型コロナウイルス感染防止措置を行う中、早朝から夜遅くまで献身的に整備を行い、当初の見積りよりも約2日前倒しで整備任務を完遂した。

また、本整備には第14旅団整備隊以外にも、第14後方支援隊の隊員が第13後方支援隊に配属され、入浴・洗濯支援、衛生救護支援及び車両・器材等の整備支援任務を遂行した。

本整備間、各部隊は隊務の総合一体化施策として、整備の合間の零細時間を活用し、地図判読訓練、地点指示、自己位置評定等の基礎的訓練や若年隊員に対する草刈機・チェーンソーの取扱教育を実施し、隊員各個の能力向上を図る等、実り多い成果を得ることができた。

特集

中央停弾堤



第15即応機動連隊最先任上級曹長現地指導

潜射場



西停弾堤


 中方YouTubeチャンネル
ロングアーム撮影

基本射場



幹線道路溜樹



ピックアップフォト集

 中方YouTubeチャンネル配信中



第50普通科連隊

「自衛官候補生教育」同期と共に

高知駐屯地において実施している令和3年度自衛官候補生教育は、体力検定、10km行進訓練、歩哨訓練、実弾射撃訓練及び戦闘訓練等に励んでいます。

陸上自衛官として必要な識能及び資質をかん養するとともに精神的及び肉体的にも成長しているほか、同期の仲間達との絆も日に日に強くなり充実した日々を送っています。

また、自衛官候補生の頑張りや成長をSNSで発信中



互いに目を凝らし監視を行う歩哨訓練



10Km行進訓練


 課業が終わってホッと一息♪
『全員集まれ〜!』


慣れないドランに集中する隊員



班長の指導のもと行う戦闘訓練

第14後方支援隊

めざせ！未来の指導官
技を磨き コツコツと

指導官を胸に確実にミットに打ち込む隊員

第14後方支援隊（隊長 吉元雄一 1等陸佐）は、4月5日から22日までの間、善通寺駐屯地において令和3年度隊格闘訓練成訓練を実施した。

本訓練は、陸上自衛官として必要な近接戦闘能力の向上を図るとともに、旅団部隊格闘指導官集合教育への参加にむけて知識・技能を修得させることを目的に実施され、指導部7名、被教育者9名が参加した。

訓練の実施にあたり、指導部は周到な事前の準備を行うとともに、被教育者に対して導入教育を実施し、訓練内容及び安全管理

を徹底した。訓練は、基礎技術・技術運用・総合訓練と段階的にを行い、最終的に特級検定に3名の隊員が合格した。

本訓練に参加した被教育者のうち、特級検定に合格した隊員は、部隊格闘指導官集合教育に向けて技能を向上させ、その他の隊員についても、この教育で手に入れた知識・技能を、今後、各部隊で実施される格闘訓練及び検定において全隊員に向けて普及し、部隊の戦技能力向上に際して重要な役割を担うこととなる。



約43Kgの擬製弾を運ぶ女性隊員（井門1士）

隊員インタビュー

中部方面特科隊第1中隊
第3砲班長
3等陸曹 宮田 洸志

●砲班長要望事項
「全力でやれ」
●良好な点
状況として、多くの陣地変換命令がありました

●今後の目標
特科隊訓練成実射において精度90%以上を獲得し、特科隊の任務達成に貢献することです。

●特に注意して臨んだ事項
基本基礎である「整理整頓」を繰り返し実施させ、どのような状況にも素早く対応させることを意識しました。

が、スムーズな陣地変換ができ砲班競技会の成果が生かされました。



陣地変換後空包射撃を行う宮田砲班

中部方面特科隊

射撃中隊訓練検閲を実施

中部方面特科隊（隊長 服部真之介 1等陸佐）は、4月15日から22日までの間、小野演習場において令和3年度射撃中隊訓練検閲を実施した。

本訓練検閲は、「島しょ守備部隊（第1次展開部隊）に配属された特科中隊の行動」について各中隊の練度及び進歩向上を

促すために行われた。各中隊長の明確な企図の下、全隊員が団結し、昨年度の検閲及び各種競技会の改善事項を反映する等、日頃の訓練成果を遺憾なく発揮して中隊の練度を向上し、特科隊精強化の資を得た。



空包射撃を行うFH70



第一線救護処置



不審者対処

第14偵察隊

「空路潜入訓練」
若年隊員を対象に練度向上

第14偵察隊（隊長 今村正文 2等陸佐）は、4月5日から8日までの間、善通寺駐屯地レンジャー塔及び第3営舎地区において空路潜入訓練を実施した。

レンジャー塔において登はん壁を使用した降下訓練、低所・高所での降下訓練及びオートバイ搭載・卸下を練成し、空路潜入要領の練度向上を図った。

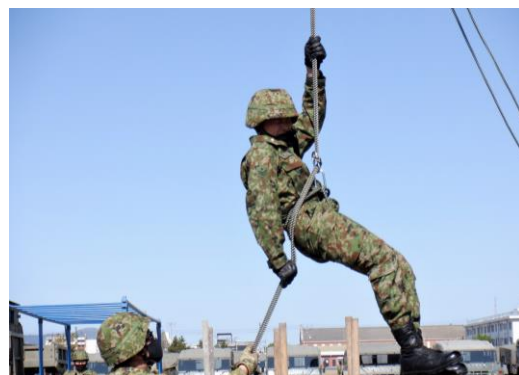
本訓練に初めて参加した神西元輝 1等陸士は「初めて空路潜入訓練に参加して、最初は、高い所が少し苦手ということもあり恐怖心で体に入っていましました。ですが、助教から指導を受け少しずつ慣れ、最終的には重量物を背負って卸下することが出来ました。6月に実機での空路潜入訓練もあるので、練度を維持・向上できるようにしていきます」と決意を新たにしました。



レンジャー塔での降下訓練(高所)



オートバイ搭載・卸下訓練



初の降下訓練に挑む神西1士

隊員紹介

第14飛行隊



第14飛行隊
3等陸曹 山崎 佑貴

第14飛行隊 山崎佑貴3等陸曹は、機上射撃係として4月7日から10日までの間、日本原演習場（岡山県）で実施された令和3年度第1次ドアガン射撃訓練に参加しました。

第1次ドアガン射撃訓練に参加して

ドアガン射撃訓練に参加するのは今回3度目ですが、機上射撃係としては初めての経験であり、いつもより緊張感を持って訓練に臨むことが出来たと感じています。

小銃による射撃訓練と異なり、航空機の爆音と振動の中で射撃を実施するというのが、慣れない状況に慣れず、慣れない姿勢で人に加えては爆音に委縮した状態での射撃となる為、通常の射撃以上に危険を伴う訓練になります。よって全般

の射撃手順及び手信号の認識に齟齬が無く、いかどうか、機内での弾薬の取扱い等について繰り返し確認をしました。

今回は航空機が接地状態でしたが、夏の佐多射場（鹿児島県）では実際に海上を飛行しての射撃になりますので、更に神経を集中させてドアガン射撃に臨みたいと思います。



機上射撃係を行う山崎3曹（写真：一番左）

第1次隊野営を実施

第14施設隊

施設技術 向上中



ライナープレートを使用し本体部を構築する
第1施設小隊隊員

第14施設隊（隊長 澤水隆一2等陸佐）は、4月12日から24日までの間、小野演習場（愛媛県）において令和3年度第1次隊野営を実施した。



枕材及び間隔材を設置する
第2施設小隊隊員

本訓練は、離島防衛に係る施設技術の向上を目的とし、第1・第2施設小隊が、集結地の占領から旅団指揮所の構築訓練を実施した。

新編成で初めて小隊訓練に臨み、激しい寒暖差の中、昼夜にわたる継続的な構築作業により、任務を完了した。本訓練で各小隊・個人の練度向上を図った。

第14通信隊

旅団隷下部隊 通信隊員が集結
通信基盤を確立

第14通信隊（隊長 西山仁基2等陸佐）は、4月7日から9日までの間、善通寺駐屯地において令和3年度第1回旅団システム通信訓練を実施し、旅団システム通信網の構成及び各種システム相互接続要領を演練し、総合的な旅団システム通信能力を向上した。

本訓練は、旅団隷下部隊の通信隊員が善通寺駐屯地に集合し、旅団システム通信組織への加入要領及び各種システムの相互接続等を練成した。

特に、民間通信網（LTE）を活用した通信組織の構成要領では、今年度の旅団の通信の基盤を確立する良い訓練となった。また、各種システムの相互接続訓練において、FCCS（火力戦闘指揮統制システム）、ADCSS（対空戦闘指揮統制システム）との接続を実施し、接続能力の向上及びADCSSの戦力化の基盤を確立させるとともに、多様化されている映像ニーズに 대응べくULC（超低レート映像伝送システム）を使用した映像伝送要領の検討を実施した。

隊は、本訓練を通じ、今年度の目標の確立を図ることができ、今後更に特技能度の向上に励む。



旅団長に対し移動加入無線の説明を行う通信隊長（旅団長…左、通信隊長…右）



各種システム器材等の構成・設定・運用を行う通信隊員



偽装網を展張し対空を警戒監視する低空レーダ

第1回隊訓練を実施

第14高射特科隊

更なる練度向上を図る

第14高射特科隊（隊長 富高英和2等陸佐）は、4月1日及び10日から11日までの間、松山駐屯地及び小野演習場において小隊検閲に向け練度向上を目的に令和3年度第1回隊訓練を実施した。

訓練は、機能別訓練及び本訓練に区分し、1日、機能別訓練として作戦法規教育、HMG（12・7mm重機関銃）操法、高利得アンテナ建柱及び車両誘導を実施し、10日から11日、本訓練として陣地偵察・占領、個人用・HMG掩体の構築及び夜間における陣地変換を重視し訓練を行い隊の野外行動能力を向上した。

また、本訓練においては先任上級曹長を長とした基本班を編成し、車両、個人の偽装及び掩体構築等の確認を実施し、隊員の基礎動作の徹底を図った。

隊は、5月15日から実施する小隊検閲に向け練度を継続し、更なる練度向上を図る。

「第1回隊訓練」

第14特殊武器防護隊



試料採取



汚染地域の偵察行動



隊本部による野外炊事



地域除染

第14特殊武器防護隊（隊長 新美賢一3等陸佐）は、4月23日から25日までの間、国分台演習場において第1回隊訓練を実施した。

本訓練は、隊とし

新たな編成後初めての訓練であり、偵察行動、地域除染、車両行進及び野外炊事等を実施して、各種状況に応じた化学活動・基盤に係る訓練により、事態対処能力の向上を図った。



HMG掩体を構築する隊員



構築したHMG掩体での対空戦闘

第14旅団司令部付隊

部隊紹介

火力調整部として「旅団システム通信訓練」に参加

第14旅団司令部付隊第3勤務班で勤務しております高井3曹です。

私の勤務しております第3勤務班は、第3部総括

第14旅団司令部火力調整部（部長 米良憲一郎1等陸佐）は、4月7日から9日までの間、善通寺駐屯地で行われた令和3年度第1回旅団システム通信訓練に参加した。

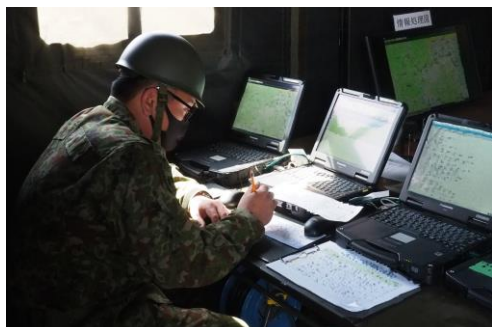
本訓練は、旅団火力調整所として、各情報機関からFICS（師団等指揮システム）上にあげられた情報を処理し、一般情報及び目標情報に区分して、FICSとFCCS（火力戦闘指揮統制システム）を接続させた射撃目標の作成、FCCS上での射撃任務の作成、隷下部隊にFCCSを介して射撃任務の伝達及び射撃の実行・効果の確認を実施した。

また、部としてFCCS訓練成訓練を事前に設定し、FCCS管理者としての知識、不測事態の対応能力及び操作手としての操作能力を練成してきた。今回、FCCSとFICSとの接続時の動作の確認や、FCCSを正しく動作させるコマンド入力・点検及び射撃任務作成要領の迅速化等、課題の見つかる大変良い訓練になった。

旅団長に対しFCCSの説明を行う火力調整部長（旅団長…右上、火力調整部長…左上）



今後は、今回得られた課題を改善し、システムを最大限駆使し、旅団の火力を統制・調整する部署として精進していきたい。

FICSの情報処理を行う
高井3曹射撃任務の作成を行う
泉2曹火力調整部長に送信の報告を行う
田辺1曹第14旅団司令部付隊
3等陸曹 高井 豊

1等陸士 辻 歩翔

